



# 林業ミニ情報 No.145

平成30年1月

- 1 多賀林業振興会が林業先進地視察研修を実施……………1  
(常陸太田林業指導所 国谷)
- 2 コンテナ苗の普及に係る現地研修を実施……………2  
(常陸太田林業指導所 寺田)
- 3 森林整備技術講習会を開催……………4  
(常陸太田林業指導所 綿引)
- 4 大子清流高校で間伐及び高性能林業機械の実習が開催される……………5  
(大子林業指導所 小川原)
- 5 水戸市及び大洗町の3中学校の生徒267名が間伐作業を体験……………6  
(水戸林業指導所 市村)
- 6 県南地域における学校等の木材利用の推進……………7  
(土浦林業指導所 加藤)

## H29.普及ミニ情報(平成30年1月)

(常陸太田林業指導所 国谷 直樹)

|             |  |
|-------------|--|
| <p>タイトル</p> | <p>多賀林業振興会が林業先進地視察研修を実施</p>  |
| <p>年月日</p>  | <p>平成29年10月24日(火)～25日(水)</p>   |
| <p>場所</p>   | <p>栃木県鹿沼市「栃木県森林組合連合会鹿沼木材共販所」、「有限会社高見林業」</p>  |
| <p>内容</p>   | <p>多賀林業振興会が、県林業研究グループ連絡協議会と合同で林業先進地視察研修を実施しましたので、視察内容と結果について紹介します。</p> <p>鹿沼木材共販所の平成28年の販売量は約64千<math>m^3</math>で、日光市近隣で伐採された木材を主に扱っており、材質も県内で一番良く、年間を通じて高齢級材を取扱い、「とちぎ日光材」としてブランド化を推進しています。</p> <p>有限会社高見林業の主な事業内容は、山林の植付けや伐採などの受託施業や、山林経営受託業務、山林の買い取り事業であり、その他に顔の見える家づくりに取り組んでいます。</p> <p>伐採木については、約4割を原木市場に出荷し、残りはハウスメーカーや工務店、製材所へ直送していますが、市場でも直送でも、エンドユーザーはあくまで施主であるため、施主が求める品質・量の材をいかに提供できるかに注力しているとのことでした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="421 1111 922 1482">  </div> <div data-bbox="951 1111 1445 1482">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="459 1491 849 1527" style="text-align: center;"> <p>鹿沼木材共販所視察の様子</p> </div> <div data-bbox="983 1491 1398 1527" style="text-align: center;"> <p>(有)高見林業現地研修の様子</p> </div> </div> |
| <p>普及成果</p> | <p>鹿沼木材共販所は、高齢級の大径材の取扱量が多く、特に優良木材展示会では、県内外の多くの業者が買い付けに訪れ、日光材としてのブランド化の効果が出ていると感じました。</p> <p>また、有限会社高見林業では、ハウスメーカー等と直接高値で取引しており、エンドユーザーである施主のニーズを満たすことが第一に考え、そのために地域を巻き込み、森林認証の取得を推進するなどの工夫を随所に行っていました。</p> <p>今後これらの取り組みを参考に、普及指導に活かしたいと考えます。</p>  |

|      |   |
|------|---|
| タイトル | コンテナ苗の普及に係る現地研修を実施  |
| 年月日  | 平成29年12月13日(水)  |
| 場所   | 栃木県那須郡那珂川町馬頭「那須南森林組合」外現地  |
| 内容   | <p>県では、林業普及指導事業における重点推進課題の一つとして、「低コスト再造林の普及」をテーマに、各林業指導所が連携し、コンテナ苗の生産促進と普及に向けた活動を行っています。</p> <p>本県のスギコンテナ苗は、平成23年度から本格的に生産が始まったところであり、現在5名の生産者が意欲的に生産に取り組んでいます。現時点で植栽は国有林に限られ、民有林においては実証試験が始まったばかりであり、本格的な導入事例が無い状況となっています。</p> <p>しかし、主伐期を迎える森林が増えつつある現状において、低コスト再造林に資する革新的技術として大きな期待が寄せられているコンテナ苗を普及することは、喫緊の課題であります。</p> <p>そこで、本県に先立ち、コンテナ苗の本格導入に取り組む栃木県において、植栽地の現況や施業方法等について現地研修を行いました。</p> <p>当日は、林業指導所、林業技術センターから計6名が参加し、はじめに那珂川町大山田上郷地内及び同町健武地内のコンテナ苗植栽地を視察した後、那須南森林組合事務所において、栃木県北環境森林事務所及び同森林組合の担当者と意見交換を行いました。</p> <p>現地は、当日スギコンテナ苗の植栽が行われている箇所と、2年前にスギ裸苗とスギコンテナ苗が植栽された箇所を視察し、苗木の納入から運搬方法、植栽状況などを確認するとともに、裸苗とコンテナ苗の植栽地では、春植えと秋植えの時期の違いはあるが、双方の生長量等を比較しても大きな差は見られないとの説明を受けました。</p> <p>栃木県では、平成30年は95万本のスギコンテナ苗を出荷する予定であり、同年春期からスギ裸苗の出荷は行わず、全てコンテナ苗に切り替えるとのことです。</p> <p>また、那須南森林組合では、コンテナ苗を導入後、1日当たりの植栽本数は増え、秋植えをはじめ、真夏と真冬を除く長期間に植栽ができるようになり、いずれも95%を超える高い活着率であったとのことでした。</p> <p>一方で、那須南森林組合をはじめとする栃木県内の多くの森林組合では、近年、皆伐面積が大幅に増加する傾向にあるが、植栽及び植栽後の下刈りを行う人員が不足しており、人材の確保が目下の課題であるとのことでした。</p> <p>低コスト再造林の普及を図るためには、コンテナ苗の活用が有効とな</p> |

りますが、現時点では、コンテナ苗の普及と優れた育苗技術の指導が最大の課題となっています。我々としても、今回の視察結果等を踏まえ、これらの課題解決に向けて引き続き活動していきたいと考えています。



植栽地視察の様子







意見交換の様子

### 普及成果

茨城県においても、森林の本格的な利用期が目前に迫っており、今後皆伐の増加が見込まれていますが、再生林に必要な苗木と植栽等を等を行う人員の確保も、検討すべき課題であります。

今回の研修により、栃木県におけるスギコンテナ苗の現状や課題、関係者の思い等が明らかになりましたが、これらの知見等を整理し、普及に努めてまいります。



|      |   |
|------|---|
| タイトル | 森林整備技術講習会を開催  |
| 年月日  | 平成29年12月20日(水)  |
| 場所   | 常陸太田市町屋町「富士山国有林」、日立市十王町高原「小松沢国有林」   |
| 内容   | <p>多賀・常陸太田両林業振興会が、茨城森林管理署、(公社)茨城県林業協会と合同で、森林整備技術講習会を開催しました。</p> <p>講習会は、今後増加が見込まれる再造林の際に利用が期待されるものの、民有林では本格的な植栽実績のないコンテナ苗の生育状況等の確認を目的としたもので、両林業振興会の会員を含め79名が参加しました。</p> <p>当日はスギコンテナ苗の試験地を設けている常陸太田市町屋町地内の「富士山国有林」及び、日立市十王町高原地内の「小松沢国有林」において、茨城森林管理署の担当者から試験内容についての説明を受けるとともに、コンテナ苗が裸苗と比較しても遜色のない生育状況であることなどを確認しました。</p> <p>また、植栽後5年が経過したコンテナ苗を1本掘り起したところ、地下部(根)は裸苗と変わらない発根状況であることを確認しました。参加者からは「何年か経過すると裸苗と同じような根の形状になるのか。」との質問もありました。</p> <p>さらに、今後の造林等に要するコスト低減のため、利用が期待されるエリートツリーや、低密度植栽等についても説明があり、エリートツリーは秋植えでも活着している状況や、植栽2年後で2mを超える大きさに生長した個体も確認しました。</p> |
|      | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>講習会の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地下部(根)の状況</p> </div> </div>   |
| 普及成果 | <p>コンテナ苗に関心を持ち、説明用に用意した苗を頂いて帰った参加者も見受けられ、今後再造林の際に、民有林での使用が増えてくるものと感じられました。</p> <p>当林業指導所では、今後も林業振興会の活動を支援し、林業の低コスト化の推進を指導してまいります。</p>   |

|      |   |
|------|---|
| タイトル | 大子清流高校で間伐及び高性能林業機械の実習が開催される   |
| 年月日  | 平成29年12月1日(金), 平成29年12月12日(火)   |
| 場所   | 大子町大字大子「奉行平演習林」及び田ノ沢地内山林  |
| 内容   | <p>県内唯一の林業関係学科を有する大子清流高校の森林科学科・農林科学科生徒を対象として林業の実習が開催されました。</p> <p>本実習は茨城県林業研究グループ連絡協議会が事業主体となり、林野庁の「多様な担い手育成事業」を活用して実施したものであり、林業研究グループ員と関係機関が連携を図り、森林・林業に関する現地での実践的な実習を通じて、林業担い手としての専門的な知識や技術を習得させることを目的として実施しています。</p> <p>実習は2回に分けて実施され、1回目は大子町大字大子の学校林で、チェーンソーを使用した伐採に係る一連の作業を全学年34名の生徒が体験しました。初めのうちは作業に戸惑っていた生徒たちでしたが、指導者のアドバイスによって、作業を進める中でコツを掴み、黙々と作業に取り組んでいました。2回目は大子町大字田ノ沢の民有林で、高性能林業機械を使用した集材・造材・積込の一連の作業を2年生4名が体験しました。高性能林業機械を自ら操作するという貴重な体験をすることができ、生徒たちが積極的に取り組んでいる姿が印象的でした。</p> |
|      |    |
| 普及成果 | <p>生徒からは、「思ったような方向に伐倒するのが難しかった」「斜面で行う間伐作業の大変さを改めて実感した」「既に林業の仕事に就こうと思っていたが、今回の体験で益々その想いが高まった」などの感想が聞かれました。</p> <p>当林業指導所では、林業従事者の高齢化が進む中で、林業後継者を育成し、確保するためにも引き続きこのような取り組みを支援していきたいと考えています。</p>   |

|      |  |
|------|--|
| タイトル | 水戸市及び大洗町の3中学校の生徒267名が間伐作業を体験   |
| 年月日  | 平成29年10月5日(木), 11月2日(木), 11月9日(木)  |
| 場所   | 那珂市古徳 「那珂指導林」  |
| 内容   | <p>大洗町立第一中学校2年生102名, 大洗町立南中学校1年生55名, 水戸市立常澄中学校2年生110名を対象に, 上記の日程で間伐等の森林・林業体験学習を実施し, 当林業指導所の林業普及指導員を含め, 林業団体等の職員が指導にあたりました。</p> <p>はじめに, 林業普及指導員から森林の様々な働きや人工林の成り立ちについて講義しました。また, 間伐作業にあたり, 伐倒作業の手順や留意事項について説明しました。</p> <p>その後, 8名程度の班に分かれ, ノコギリを使った伐倒作業を体験しました。受け口や追い口を入れる作業を生徒が交代しながら行いました。伐採木が掛かり木になってしまう班が多くありましたが, 班全員で力を合わせてロープを引いて無事倒しました。伐倒後は枝払いと玉切り作業を行い, 丸太を薄く切ってコースターにして記念に持ち帰りました。</p> <p>閉講式では生徒から指導した職員に対してお礼の言葉の後, 童謡「ふるさと」を全員で合唱して終了となりました。</p> |
|      | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>森林の働きの説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>伐倒の様子</p> </div> </div>   |
| 普及成果 | <p>生徒からは, 「森の中に入ると, 空気がすごくおいしくて気持ちいい」「受け口を作るのが難しく, かかり木になってしまったが, 楽しかった」「間伐の大切さがわかった」「林業は植えて切ることしか知らなかったが, 間伐もあるとわかった」「コースターづくりが楽しかった」などの感想を聞くことができました。</p> <p>当林業指導所では, 今後も学校の要望等に合わせ, 多くの児童・生徒に体験学習の機会を提供していきたいと考えています。</p>  |

## H29.普及ミニ情報(平成30年1月)

(土浦林業指導所 加藤 智一)

|             |   |
|-------------|---|
| <p>タイトル</p> | <p>県南地域における学校等の木材利用の推進</p>  |
| <p>年月日</p>  | <p>平成29年12月1日(金)</p>  |
| <p>場所</p>   | <p>守谷市内小・中学校、土浦市立図書館</p>  |
| <p>内容</p>   | <p>学校等の教育施設に木材を利用することは、木材の持つ柔らかさ、温かさ等の特性により、生徒・児童の健康や精神面で良好な学習・生活環境に大きな効果が期待できるとされています。</p> <p>当指導所では、公共施設における木造化・木質化や木製品の導入による県産木材の利用やその普及啓発を行っており、今回は、学校等の施設の導入事例を紹介します。</p> <p>守谷市では、平成29年8月に市内すべての公立小学校(7校)・中学校(3校)において、生徒・児童の学習机3,450台を学習しやすい大きな天板に、茨城県産のスギ材を使用して交換しました。</p> <p>土浦市では、平成29年11月に新しく土浦駅前にオープンした市立図書館において、児童コーナーのテーブルやイスを茨城県産のヒノキ材を使用して整備しました。</p> <p>各市において、このような県産木材を使用することによって木の質感や温かさを感じてもらい、落ち着いた環境で学習や生活ができると期待しております。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="408 1249 906 1619">  </div> <div data-bbox="935 1249 1433 1619">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="579 1630 751 1664"> <p>机の天板交換</p> </div> <div data-bbox="1054 1630 1313 1664"> <p>木製テーブル・椅子</p> </div> </div> |
| <p>普及成果</p> | <p>学校等の公共施設での木材利用の意義は大きく、生徒や保護者、教育関係者等に木の良さを実感していただき、広く普及啓発を図ることが重要です。</p> <p>近年は、学校の統廃合や小中一貫校の創設により、学校の建替や増築が増えており、計画の際に木材を積極的に利用されるよう、市町村の教育機関や関係者に働きかけてまいります。</p>  |